

松浦市文化財調査報告書 第8集

# 刈萱城跡

1990

長崎県  
松浦市教育委員会



松浦市文化財調査報告書 第8集

かる かや じょう あと  
刈 萱 城 跡



長崎県松浦市教育委員会



## 発刊にあたって

松浦市は、日本列島の西端に位置し、中国大陸・朝鮮半島とも近いという地理的条件もあり、古くから大陸との交流をうかがわせる遺跡も数多く知られています。

近年、市内においても宅地造成や各種の開発事業が増加し、これに伴う埋蔵文化財の発掘調査が後を絶ちません。

この「刈萱城跡」もそのひとつであります。私たちは、先人から受け継いだ文化財の保護に、より一層の努力をするとともに、これらの発掘調査の成果につきましては、広く市民の皆様の学習の用に供したいと考えております。

本書が郷土の歴史を知る一助ともなれば幸いに存じます。

最後に、今回発掘調査に従事されました方々と、絶えずご協力を賜りました長崎文化放送株式会社には厚くお礼申し上げる次第でございます。

平成2年3月

松浦市教育委員会

教育長 呼子俊一

## 例　　言

1. 本書は、長崎県松浦市星鹿町岳崎免 2,283-10番地の86m<sup>2</sup>の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は、長崎文化放送株式会社の委託を受けて、松浦市教育委員会が実施した。
3. 調査は、松浦市教育委員会社会教育課が実施し、社会教育主事の中田敦之があたった。
4. 遺物の実測および写真の撮影は中田があたった。
5. 本書の執筆・編集は中田があたった。
6. 調査によって出土した遺物は、松浦市教育委員会がその保管の任にあたっている。
7. 本書は、松浦市文化財調査報告書第8集にあたる。

## 本　文　目　次

I. 調査に至る経過	1
II. 遺跡の立地と環境	1
III. 調査の内容	4
1. 調査の経過	4
2. 発掘の成果	5
IV. ま　と　め	7

## 挿　図　目　次

第1図 松浦市内地質図	2
第2図 刈萱城跡周辺遺跡分布図 ( $\frac{1}{25,000}$ )	3
第3図 刈萱城跡位置図 ( $\frac{1}{2,500}$ )	4
第4図 調査区設定図 ( $\frac{1}{400}$ )	4
第5図 C区北壁上層図 ( $\frac{1}{40}$ )	5
第6図 出土遺物実測図 ( $\frac{2}{3}$ )	6
第7図 松浦市周辺の主要城郭分布図	9

## 表　　目　次

第1表 松浦市周辺の主要城郭一覧表	8
-------------------	---

## I 調査に至る経過

本市における埋蔵文化財は、昭和56年長崎県教育委員会文化課が行った遺跡周知事業の再調査において、79ヶ所の遺跡が確認されており、その結果が昭和62年「長崎県遺跡地図」として刊行されている。その後、市教育委員会の分布調査において92ヶ所に増加している。

平成元年6月、松浦市に長崎文化放送株式会社より松浦市星鹿町城山に松浦テレビ中継放送所敷地借用願いが提出され、8月に貸付契約を取り交わしていた。しかし、文化財についての協議は行われていなかった。11月、市教育委員会はテレビ中継所建設の情報を得て、同社に当該地が周知の遺跡「長崎県遺跡地図52-34刈萱城跡」となっている旨を連絡し、協議を行った。その結果、市教育委員会では、城跡の概要や密度を調べるために、長崎文化放送株式会社と委託契約を結んだ。12月20日～12月26日に発掘調査を行い、平成2年2月末から3月に整理・報告作業を行った。

調査関係者については、下記の通りである。

調査主体	松浦市教育委員会		
総 括	教 育 長	呼 子 俊 一	
	教 育 次 長	松 尾 公 平	
庶 务	社会教育課課長 石 本 利 明		
	社会教育課次長	網 本 利 光	
調 査	社会教育主事	中 田 敦 之	
調査協力	長崎文化放送株式会社		
	松 浦 市 企 画 財 政 課		

## II 遺跡の立地と環境

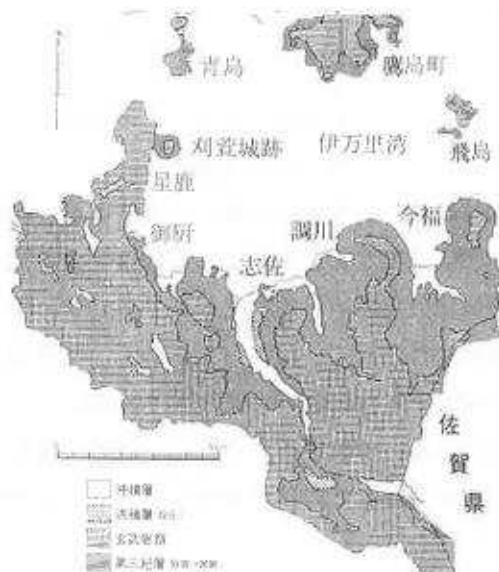
刈萱城跡は、長崎県松浦市星鹿町岳崎免2,283-10番地に所在する。

松浦市は、北松浦半島の北部とその沖に浮かぶいくつかの島々から構成され、北に伊万里湾、西から南にかけて北松浦郡田平町・江迎町・吉井町・世知原町と、東は佐賀県伊万里市と接している。地勢は、基盤となる第三紀層とその上部を玄武岩が堆積する地質構造で、いたる所に玄武岩台地を形成している。玄武岩台地は高位、中位、低位の3段の台地よりなっており、低位の台地が御厨町から田平町・星鹿半島にかけてみられる。星鹿半島は、市北西部の伊万里湾に面し、北に向かって突出した南北約4kmの小半島で、標高10～40mの低位な台地である。先端部東側には標高125.6m、トロイデ式火山の城山がこぶ状につき、山頂部には、玄武岩が堆積している。城山に接して南側には、北西部の季節風を避けることのできる天然の星鹿港がある。

最北端の津崎鼻は海食崖が発達し、玄武岩の柱状節理が見られる。星鹿港から北へ約3kmに位置する青島も玄武岩台地からなる島で、干潮時には青島と地続きになる松島を属島として、北から南西に向かって弓なりに湾曲する瓢箪型の島である。北側は標高約20m、南側は約60m以下の台地を成している。

刈萱城跡が所在する星鹿城山および半島一帯には、旧石器時代からの道具生産の主たる石材である黒曜石の原産地があり、特に牟田地区周辺は全国的にもよく知られている。そのためもあってか全域が遺跡といつていいほど密集している。

青島の段ノ上遺跡・青島遺跡からは旧石器時代のナイフ形石器・台形石器が採集されており、二つの遺跡が同時期に存在していたのか、あるいは若干の時間差があったのか今後検討をしなければならないと指摘されている。一方半島内に目を向けると大石A・下田・牟田遺跡等からナイフ形石器、津崎鼻遺跡から台形石器が採集されている。出土品では昭和61年に範囲確認調査を行った下田遺跡の台形石器がある。縄文時代では津崎鼻・大石C遺跡より石鏃、下田遺跡より石鏃・サイドブレイド・石匙・石鏃が採取されているが、土器の出土はない。しかし、半島南側の姫神社・池田遺跡からは良好な包含層が検出されている。姫神社遺跡は昭和41年に日米合同調査が行われ、縄文前期～中期の土器・石器等が出土している。姫神社遺跡の西側約400mには池田遺跡がある。昭和63年から平成元年にかけて範囲確認調査が行われ、縄文晩期～弥生時代中期にかけての遺跡であることが確認されている。弥生・古墳時代では弥生土器・須恵器片が一町田遺跡等から採集されている。中世では山城としての刈萱城跡がある。同城は建久2年(1191)に加藤左衛門重氏によって築城されたと言われている。また、元寇に関する千人塚もある。その他では、下田遺跡から土師皿・龍泉窯系青磁碗破片が出土している。その後は特記すべき顯著な遺跡は知られていない。



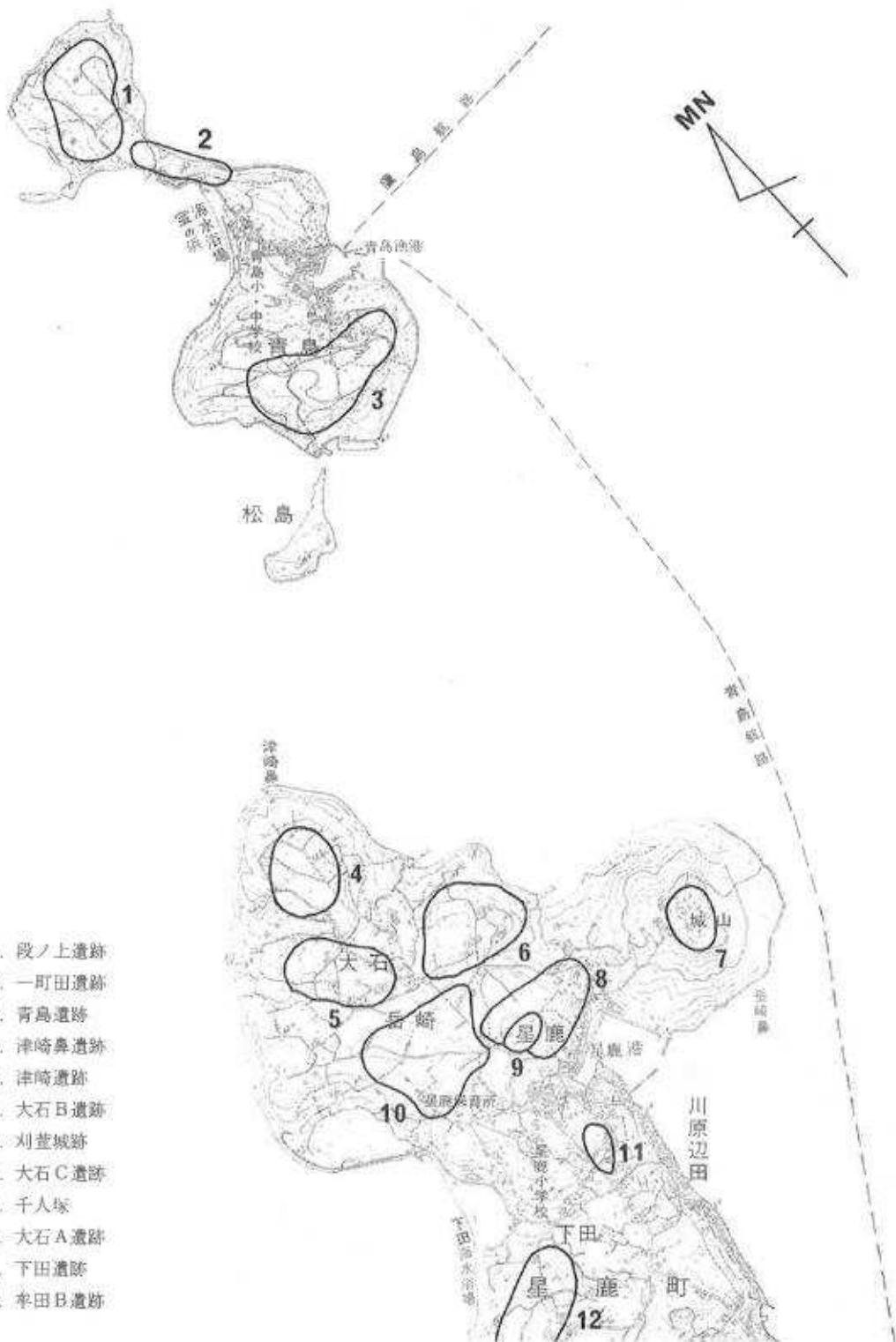
第1図松浦市内地質図

〈参考文献〉 中田敦之編 『下田遺跡』 松浦市教育委員会 1987

長崎県教育委員会『長崎県遺跡地図』 長崎県文化財調査報告書第87集 1987

下川達彌 『長崎県松浦市域における旧石器時代遺跡』 『長崎県北松浦地方の文化』

長崎県立美術博物館 1984

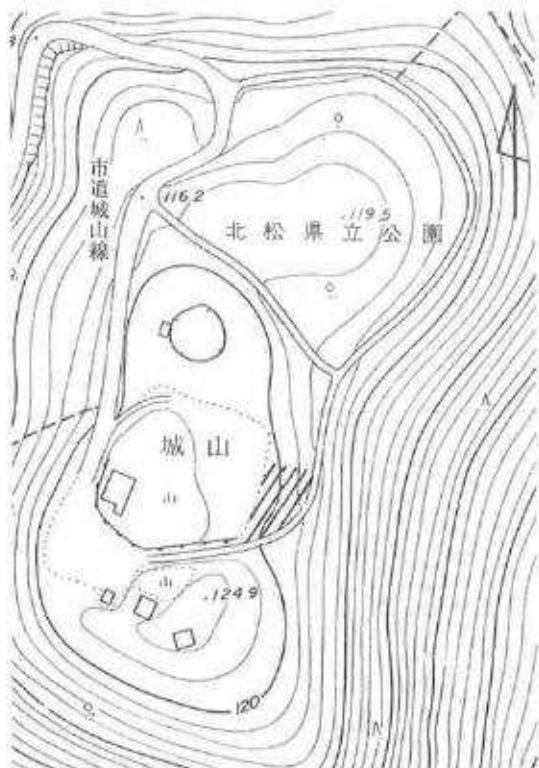


第2図 剣賊城跡周辺遺跡分布図 ( $\frac{1}{25,000}$ )

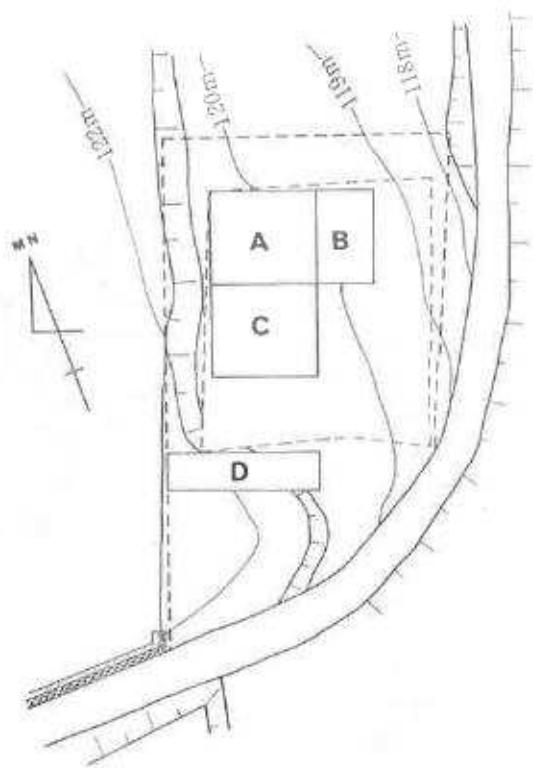
### III 調査の内容

#### 1. 調査の経過

今回の刈萱城跡の発掘調査は、平成元年12月20日から26日の6日間の日程で行った。調査はテレビ中継局建設に伴う開発面積 $331.5\text{m}^2$ に限定した。この場所を含む城山の山頂部一帯は、『長崎県遺跡地図』にも収録されており、採集された遺物はないが中世山城に関する存在が予想されるところであった。20日はまず代採作業から開始し、北からA・B・C・D区を設定した。そして、A区の調査から順次行った。調査が進むにつれていずれの調査区からも遺物の確認はできたが、プライマリーな遺物包含層は検出することができなかった。また、石壘等の人工的な遺構の確認もできなかったが、素材となる玄武岩は一帯に点在していた。D区では太平洋戦争中に関する建築物があったと思われ、埋土が厚く堆積していた。さらに「8-2海軍」という石柱も残っていた。また、周辺の踏査においても戦時中の遺構（防空壕・排水溝・探照灯跡等）をいたる所で発見することができた。しかし、刈萱城に関する遺構の発見に至らなかった。このような状況下にあるため当初予定していた $144\text{m}^2$ の発掘調査は最終的に $86\text{m}^2$ で終了した。



第3図 刈萱城跡位置図 ( $\frac{1}{500}$ )



第4図 調査区設定図 ( $\frac{1}{400}$ )

## 2. 発掘の成果

発掘した4つの調査区から出土した遺物は32点であった。出土状態も流れ込みと思われる攪乱層からであった。周辺一帯は太平洋戦争さらには近年の公園化事業などたびかさなる造成によって大きく変化しており、現在では城の輪郭を残すのみとなっている。調査区は主郭の外周部分にあたるため西側より東側へ緩く傾斜しており、石垣等の防衛施設の存在が予想された。

### 土層

発掘調査の結果、次の層序が確認された。

第1層は表土で、茶褐色を呈し、しまりがない。腐食土堆積層で一部10cmにも満たない。西側に一部埋土が認められる。遺物包含層。

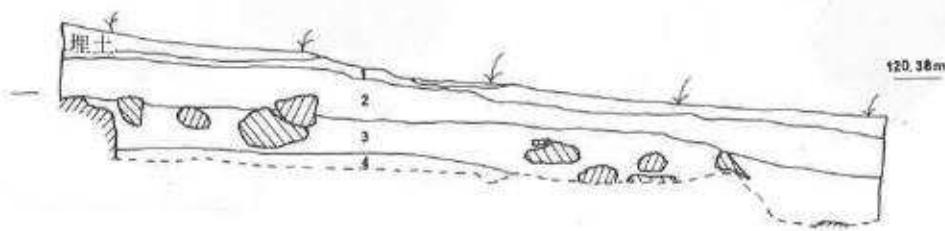
第2層は褐色土で、1層よりしまっているが、プライマリーな土層ではなく流れ込みと思われる。20cmの堆積で遺物包含層である。

第3層は明褐色で、2層より赤みを呈する。粘性に富むが無遺物層である。玄武岩の風化土層でプライマリーである。

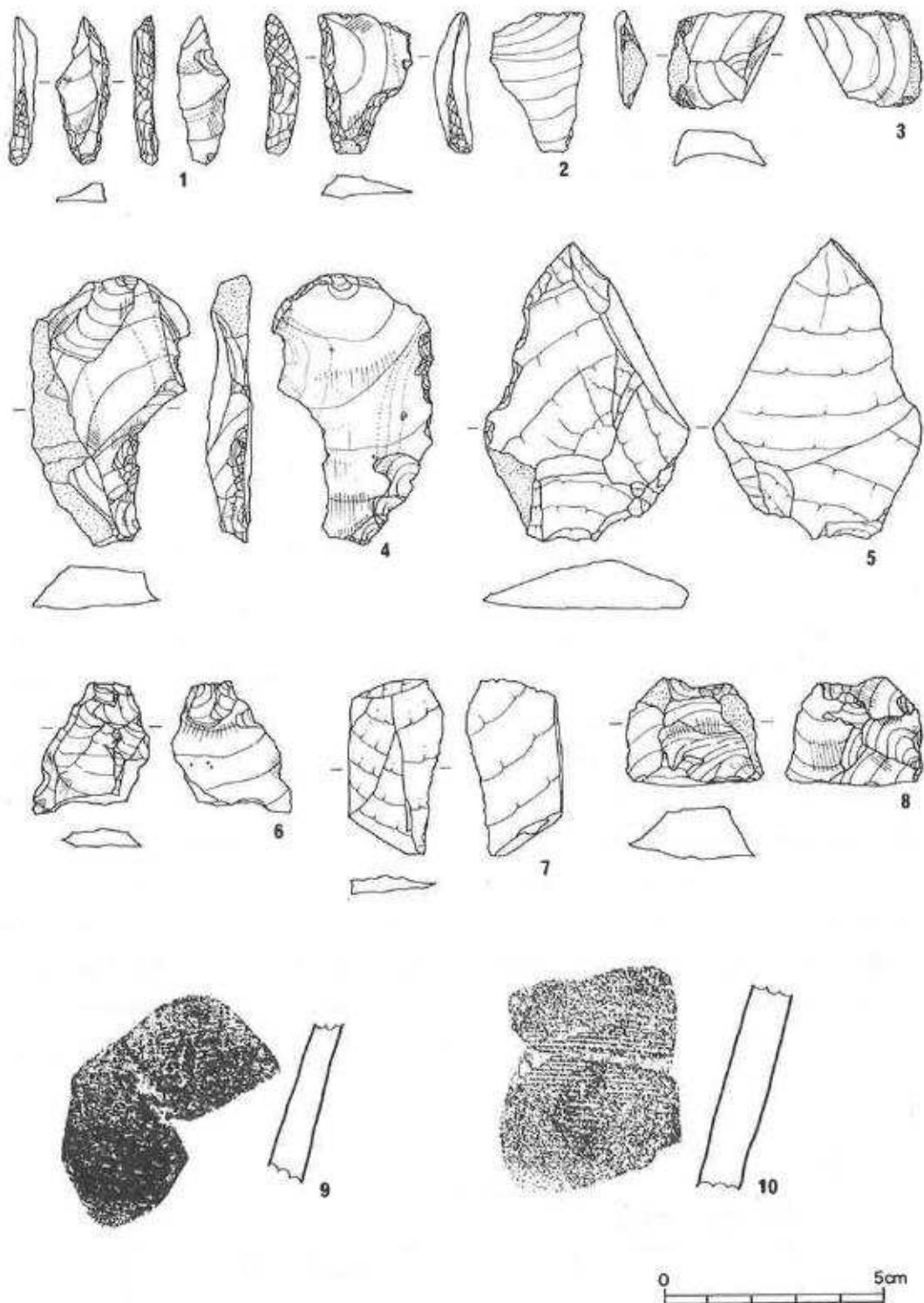
第4層は付近一帯の地山を形成する玄武岩の風化した礫を多量に含む土層である。

### 出土遺物

出土した遺物32点のうち10点を図示した。1は比較的良好な縦長剝片を素材とし、二側縁加工のナイフ形石器である。両側縁とも入念な急傾斜細調整および微調整を施している。器長と刃部の長さの割合がほぼ半々で細身である。2は幅広剝片を素材とし、一側縁を折断によりバルブを除去後その一部に急傾斜細調整を施している台形石器である。一方は湾曲を呈し裏面側より細調整を施している。基部に一部自然面を有する。3も幅広剝片を利用した台形石器と思われる。刃部に最大幅をもち基部と平行している。刃部は刃こぼれが頗著である。4はスクレイバーで、抉入状の加工痕がある。5は使用痕のある剝片である。6・7は剝片である。8は打面転移を繰り返して剝片を作り出している石核である。石材は5・7が安山岩で他はすべて黒色黒曜石である。図示しなかった他の遺物には灰青色黒曜石製剝片3点、黒色黒曜石製剝片4点・石核1点・碎片6点があった。9・10は同一個体と思われる瓦質の捏鉢胸部片である。外面は粗いつくりのままで、内面に横位のハケを密にしている。中世期に属するものであろう。



第5図 C区北壁土層図 (説)



第6図 出土遺物実測図(1)

## IV まとめ

今回の刈萱城跡の調査は、中世山城に関する防御施設の予想があったが、相反して旧石器時代のナイフ形石器や台形石器が出土した。その特徴からフェイズII後期に属すると思われる。これで周辺にもまだ分布している可能性が出てきたことになるが、ここでは当初の目的であった刈萱城跡に関して考察し、まとめにかえたい。

刈萱城に関する考古学的発掘調査は最初であったが、刈萱城に関連すると考えられる遺物は瓦質土器片のみで時期的には13世紀～14世紀代と思われ、築城時期等に関する解答は得られなかった。刈萱城に関する確実な資料はきわめて乏しい。『肥前記』『西陽記録』『山口書留』等によれば、源頼朝から下向を命ぜられた加藤左衛門重氏なる人物が建久2年（1191）に築城したといわれている。重氏とその子石童丸に関する物語は淨瑠璃・説教節・琵琶などでよく知られている。筑紫出身の僧刈萱の幼な子石童丸は、母を麓に残して女人禁制の高野山に父を訪ねる。偶然出逢った刈萱は父は没したと偽って帰す。母は没していたという筋である。

いわゆる歴史時代の遺跡の調査において、文献史料と考古資料とともに必要なことは論をまたない。しかし、現状ではいずれも発見されていないため遺構の形状・規模等の検討によってある程度予察することしかできない実情である。刈萱城の縄張りについては、現地踏査による現地形からの判断であって、今後周辺の計画的な調査によって刈萱城の規模や築城時期等がよりいっそう明確化していくと思われる。その規模は東西約90m、南北約200mが推定され、これは中世の山城としては大きな部類に入るものと思われる。中央部に東西に横断する形で幅約5m、長さ約80mの小道が通っており、おそらく空堀と考えられるため、南側を主郭、北側が二ノ郭に相当すると思われる。しかし、資料による建久2年築城と考えると規模が大きいため、後に拡張していったものではないかと考える。その理由として、文永11年（1274）・弘安4年（1281）の元寇襲来と『壱陽錄』の元亀3年（1572）の老岐合戦に関する記事の中に星鹿港を中心とする攻防の模様が記されており、これらの戦いにおいても何らかの防御基地としての利用が考えられる。また、伊万里湾口の入口を確保するという地理的な条件にも起因すると思われる。刈萱城跡の北側の海岸部周辺一帯には、元寇に関する遺構として伝承されている石塁、防塁、倉庫、排水溝等があり、その規模・範囲は目を見張るものがある。さらに、西側の台地には千人塚と称する石塚が6ヶ所ほど残っており、大激戦の展開されたことが窺える。

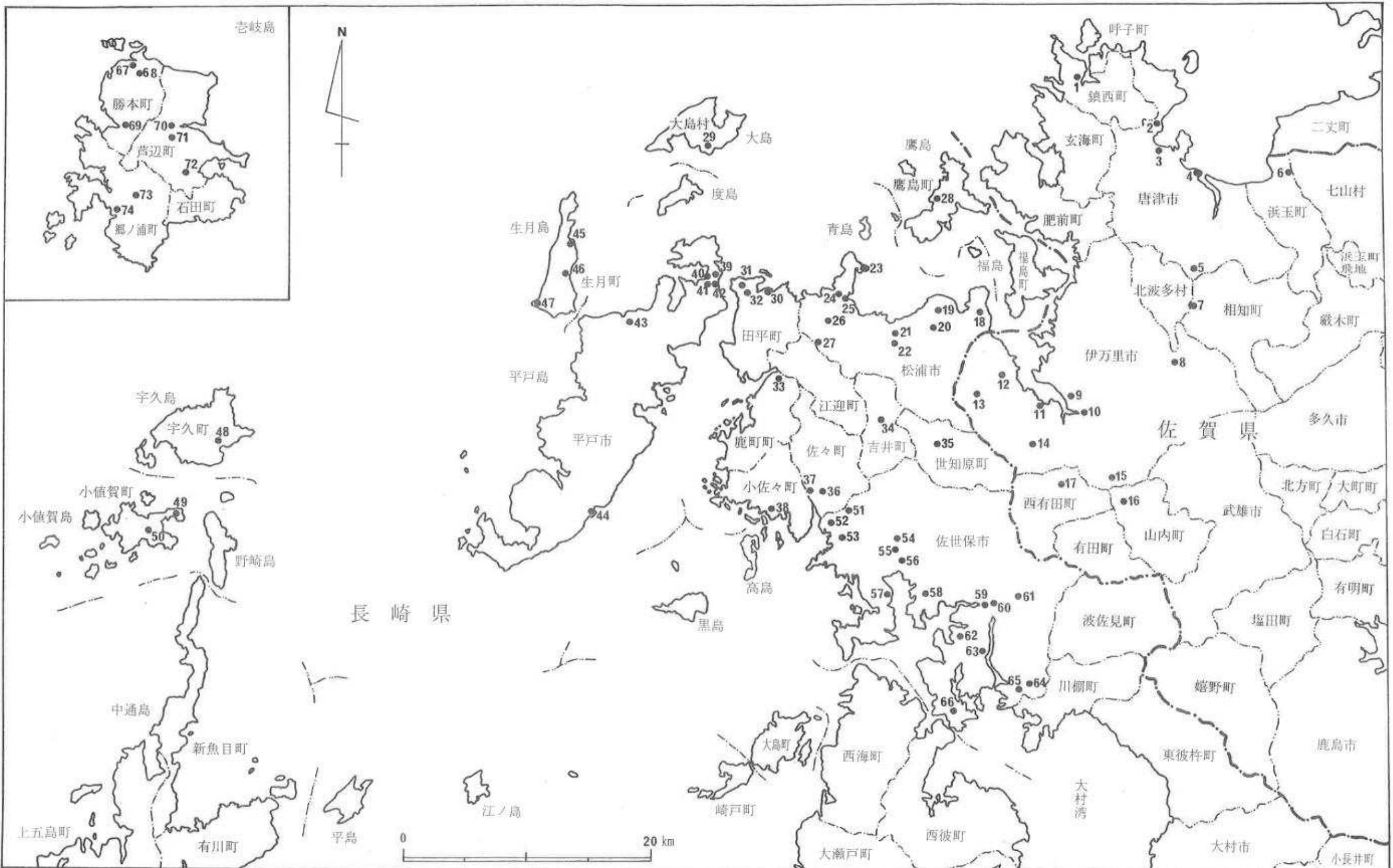
刈萱城跡の調査はまだ端緒についたばかりであり、今回の調査を契機として、刈萱城跡周辺の保存計画を十分検討して、刈萱城跡を保存していく必要がある。松浦市及び周辺でも近年、中世山城の調査が各地で行われている。名護屋城跡の整備・松浦党梶谷城跡保存整備委員会・直谷城跡調査のように今日では中世山城が注目をあびてきている。

〈参考文献〉 外山幹夫・高島忠平 『日本城郭大系17 長崎・佐賀』 1980

松浦市史編纂委員会 『松浦市史』 1975

第1表 松浦市周辺の主要城郭一覧表

城名	所在地	創設年代	創建者	遺構	城名	所在地	創設年代	創建者	遺構
1 舟頭屋城	東松浦市船山町舟頭屋	1532年(弘治5年)	豊臣秀吉	本丸など	28 鹿野城	北松浦郡小牧立町鹿野	元亨初年	小牧牛太郎	本丸、櫓跡
2 日高城	佐世保市日高	根田文朝	日高人相守資	土塁	29 鮎城	平戸市鯛川町	正和初期	鯛浦守信	鯛城、石垣
3 高田城	佐世保市八幡町	947年	佐志村義か	土塁	40 中之郷城	平戸市鶴川町	慶長13年(1608)	松浦秀信	
4 唐津城	唐津市東城内	1568年	吉良忠勝・吉良忠利	土塁・石垣	41 稲毛城	平戸市鶴川町西久保	南北朝	松浦秀信	空堀
5 青山城	佐世保市青山	越後文朝	吉田家吉	石垣、馬場跡	42 三之郷城	平戸市弓削町	1599年(安永3年)	松浦景信	本丸、石垣
6 駿河城	東松浦郡西伊豆町駿河	1586年	草野氏	石垣、空堀	43 箕郷城	平戸市主郷町城山	南北朝		石垣
7 岸和城	東松浦郡相田町佐原	平安末期	波多氏氏	本丸など	44 前瀬吉城	平戸市前瀬吉町			
8 伊有城	伊万里市大川内町伊有	1554～1556年(天文3年)	大川内通	本丸、空堀	45 一郷氏城	北松浦郡伊有町一郷通		一郷氏	
9 木浦城	伊万里市木浦町野里	鎌倉時代	木浦貢	空堀	46 田代城	北松浦郡伊有町田代		田代氏	
10 伊万里城	伊万里市伊万里町御内	1210年(承久2年)	室上氏	郭	47 望月城	北松浦郡伊有町望月		山田氏	
11 里折城	伊万里市里折山代町里折	1145～1155年(承久4年)	源四郎太夫内	木垣跡	48 平之郷城	北松浦郡伊有町平之郷			
12 斎藤城	伊万里市山代町久保	1145～1151年(承久4年)	斎藤义太政	本丸、空堀	49 本城子尾城	北松浦郡大村賀町本城		斎藤、源理	空堀、石垣
13 山代寺城	伊万里市山代町山代	1145～1151年(承久4年)	源四郎太夫内	石垣、箭薙	50 清雨城	北松浦郡小竹貞町		松浦定	
14 須田城	伊万里市山代町須田		須田利太夫直	空堀、石垣	51 神久脇城	先世保町八久保町	1583年	重五郎秀昌	
15 大山内城	伊万里市大川内町大川内		大川内氏	空堀	52 輪登城	佐世保市輪登町	1535年	輪登	空堀、天守門
16 佐古城	佐木町山内町宮野	戰國時代	佐古氏	郭、空堀	53 武道城	佐世保市武道町	1202年	武道	水堀、空堀
17 朝船城	西松浦郡西伊有町朝船	1210年	源実業	空堀、空堀	54 大曾根城	佐世保市大曾根町	1404年	大曾根	本丸、空堀
18 乾谷城	松浦市今福町乾谷	1588年(天正6年)	源久・か	本丸、物見丘	55 須江城	佐世保市須江町	1489～1490年(弘治2年)	須江	石垣
19 桜園城	松浦市朝川町上池	元和時代	桜園氏	土塁、空堀	56 佐世保城	佐世保市佐世保町	1381～1384年(弘治4年)	佐世保氏	空堀
20 諸浦城	松浦市諸浦町井伊佐		松浦氏		57 佐崎城	佐世保市佐崎町	1558～1592年(弘治4年)	佐崎根子	本丸、櫓
21 仲ノ内城	松浦市志佐町仲内	1489～1492年(弘治2年)	志佐純次	本丸、空堀	58 日下城	佐世保市日下町	140世	日下氏	空堀
22 早山城	松浦市志佐町早山		志佐氏	内郭	59 早岐城	佐世保市早岐町		早岐	本丸
23 对马城	松浦市星置町对马	1191年(承久2年)	加藤氏氏	本丸	60 久田城	佐世保市久田町	1573～1582年(天正11年)	久田	石垣
24 旗本城	松浦市御厨町平尾		旗本氏		61 小手町城	佐世保市小手町	1573～1593年(天正11年)	松浦景翁	本丸、空堀
25 郡城	松浦市御厨町平尾	鎌倉時代	郡氏		62 中ノ原城	佐世保市中ノ原町	1564年	中ノ原	本丸、石垣
26 鹿之森城	松浦市御厨町小鹿之森	鎌倉時代	鹿之森氏		63 佐志方城	佐世保市佐志方	1564年	佐志方氏	本丸、石垣
27 天所志城	松浦市御厨町天所志	平安末期	天所志社	石垣	64 宮村城	佐世保市宮村町	1529～1541年(弘治4年)	宮村通義	郭、櫓切
28 佐三城	北松浦郡佐三町佐三		佐三氏	空堀	65 小崎城	佐世保市小崎町	1475年	佐三通定	本丸、石垣
29 大高城	北松浦郡大高町大高		大高氏		66 佐世保城	佐世保市佐世保町		佐世保氏	本丸、土塁
30 里城	北松浦郡田家町里	1592年	佐波氏	本丸、空堀	67 野瀬城	佐世保市野瀬町	1591年	松浦景信	本丸、櫻石
31 陣口城	北松浦郡田平町田平	1489～1492年(弘治2年)	峰	空堀、空堀	68 高津城	佐世保市高津町	1594～1595年(弘治7年)	佐志忠次郎忠義	空堀
32 鹿千田城	北松浦郡空町山内兔	1469～1477年(弘治2年)	鹿千田榮	本丸、空堀	69 生池城	佐世保市生池町		本城氏	空堀、門
33 清江武城	北松浦郡御町深江	1592～1593年(弘治2年)	志原清本	内郭、空堀	70 田郷城	佐世保市田郷町	1504～1524年(弘治7年)	田郷里氏	石垣
34 世知原城	北松浦郡志知原町中津	1233～1247年(承久4年)	世知原氏	本丸、物見丘	71 鹿嶋城	志知原町中津町分水嶺	(1294～1328年)	鹿嶋原氏	内堀
35 宝光寺山城	北松浦郡佐野町須原	1669～1687年(弘治2年)	宝光寺	本丸、山城	72 鹿嶋城	志知原町中津町分水嶺	1159～1160年(弘治2年)	佐田忠政	本丸
36 瑞原城	北松浦郡佐野町山見	1469～1487年(弘治2年)	瑞原勝盛	本丸、空堀	73 北玉城	志枝御路ノ通町山見町	1629～1674年(弘治6年)	北玉城	
37 瑞原城	北松浦郡佐野町山見	1469～1487年(弘治2年)	瑞原勝盛	本丸、空堀	74 佐月城	志枝御路ノ通町山見町	1203年	浅茅景輝	本丸、石垣



# 写 真 図 版



刈萱城跡遠景（南より）



刈萱城跡遠景（西より）



調査区近景（南より）





調查風景



調查風景



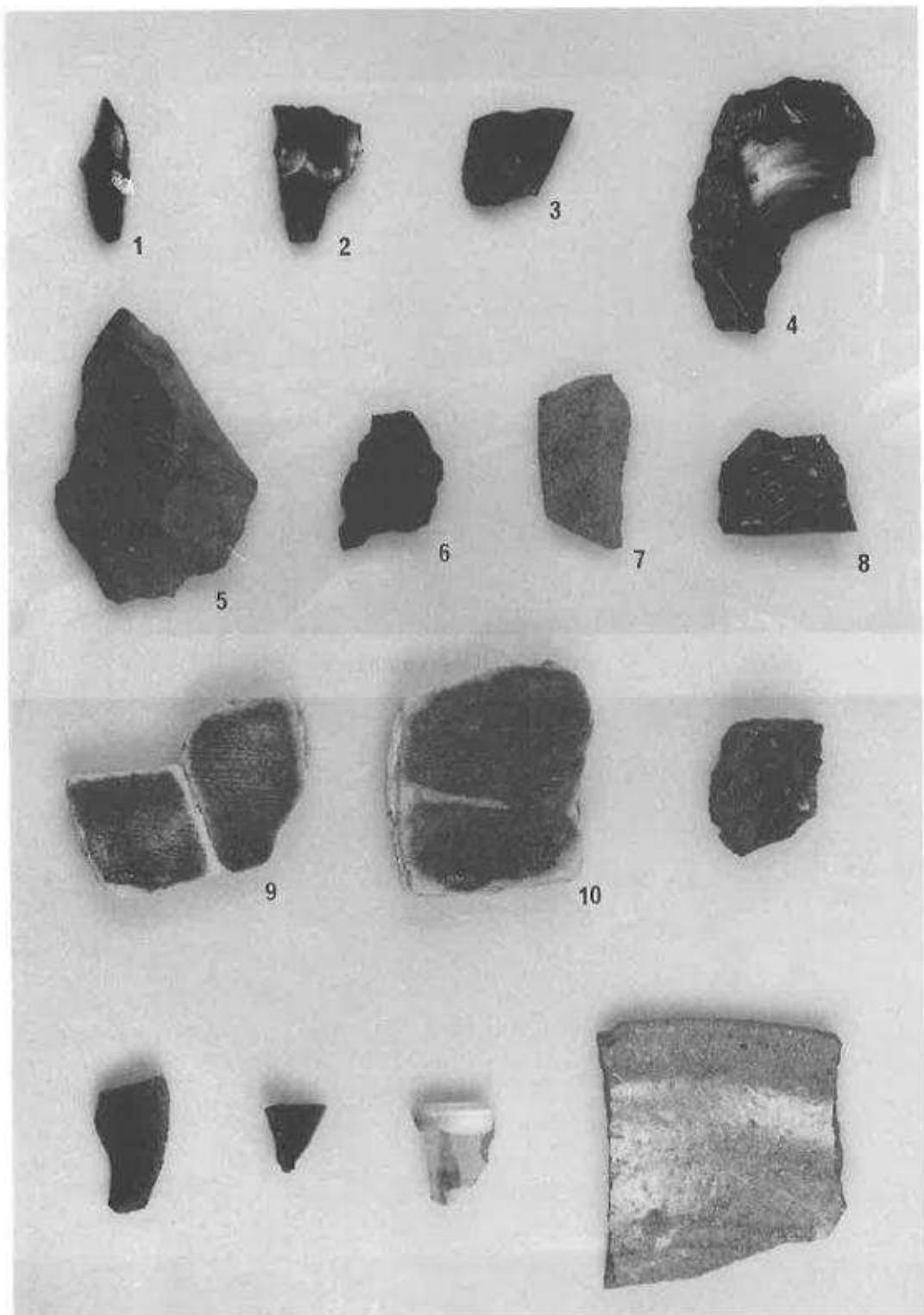
C区地山状况



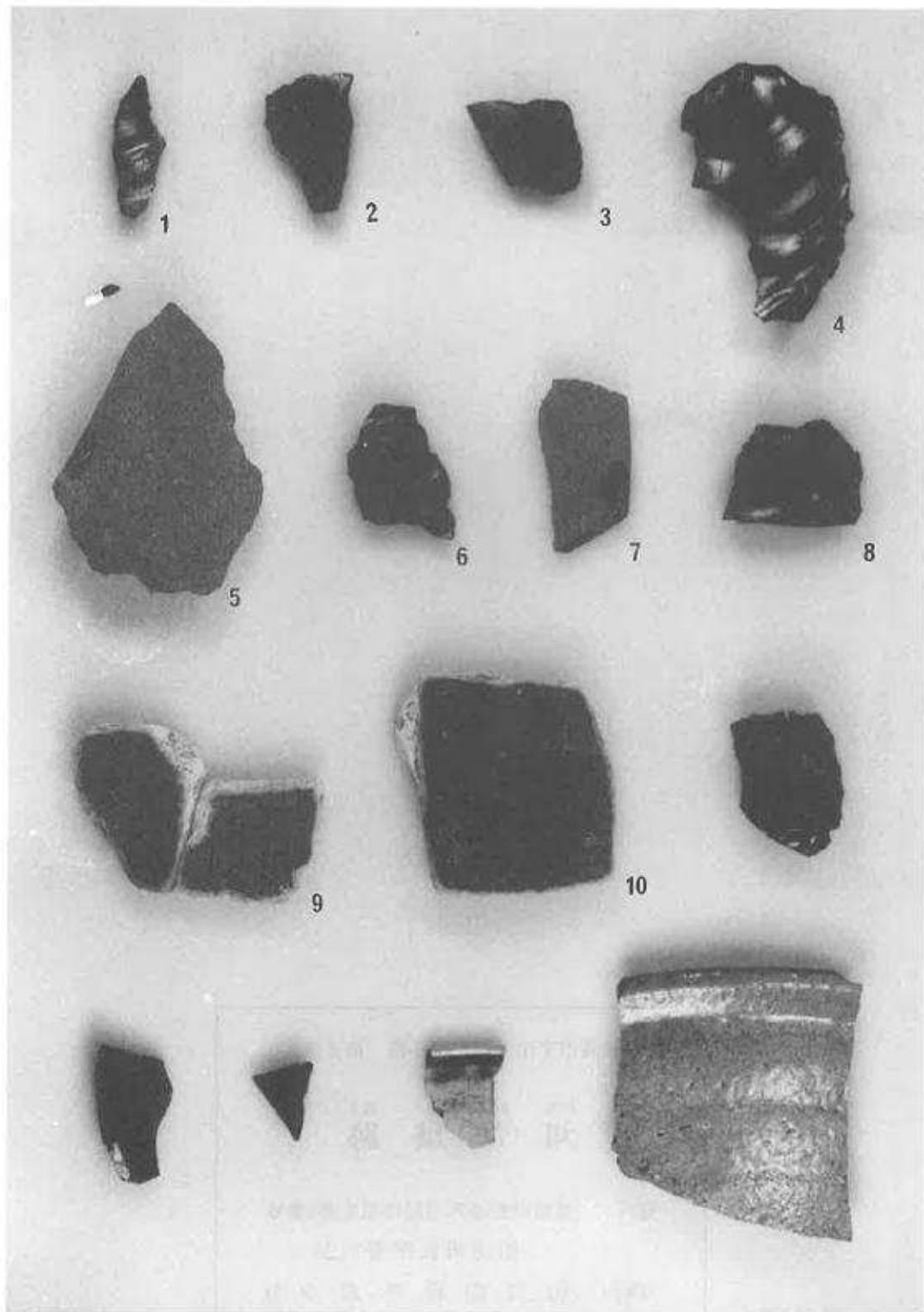
C区北壁土層状況（南より）



D区北壁土層状況（南より）



出土遺物 表(三)



出土遗物 图(5)

松浦市文化財調査報告書 第8集

かる かや じょう あと  
**刈萱城跡**

発行 長崎県松浦市志佐町里免365番地

松浦市教育委員会

印刷 山口印刷株式会社



